



支部だより

第 91 号

編集・発行

〒464-0039

名古屋市千種区日和町2-18

名古屋地方気象台内

日本気象学会中部支部

電話 052-751-5124

2022.02.22

目次

・ 日本気象学会2021年度秋季大会開催報告	1
・ 第24回公開気象講座「豪雪」の報告	2
・ 気象サイエンスカフェの報告	3
・ 2021年度 日本気象学会中部支部 総会報告	3

■日本気象学会2021年度秋季大会開催報告

今年度の秋季大会は、12月2～3日にポスターセッションをオンラインで、6～8日に口頭発表および専門分科会等を対面で三重大学を会場として開催されました。また、表彰式・受賞記念講演、シンポジウムは会場での対面開催に加えて、オンライン同時中継も実施しました。シンポジウムは当日参加できなかった方の利便性も考え、録画公開※もしています。大会開催にあたり、中部支部では支部内に実行委員会を設け、2年間にわたる実施準備と対面開催での大会期間中の運営を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面開催が危ぶまれましたが、幸い、感染状況が落ち着いていたため、万全の感染症対策を検討・実施することにより、感染者を出すことなく、無事に開催することができました。大会の参加者数は事前登録者が450名ほどいましたが、各会場の参加者数からこれより大幅に少ない300名程度であったと思われます。とはいえ、各会場において研究発表と活発な議論が行われ、事後に行ったアンケート結果からも、対面開催ができて休憩時間も含めて活発な議論ができたなどの意見もあり、久しぶりに行われた対面開催のメリットを実感された方も多かったと思われます。



写真1 口頭発表の様子



写真2 シンポジウムの様子
(パネルディスカッション)

※<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/atm2021/symposium>

大会実行委員が企画したシンポジウムは、「気象学の最新知見を活かした地域との協働～地球温暖化時代の持続可能な社会への転換を目指して～」とのテーマで、気象学の研究者、気象キャスター、三重県副知事といったそれぞれの立場から、テーマに関わる最新の研究、情報の発信、行政での取り組みについて講演をしていただきました。パネルディスカッションでは、三重大学立花義裕教授がコーディネーターとなり、最新の研究成果を実社会で活かすための方策について議論を行いました。詳細については、秋季大会のWebページ※をご覧ください。

今大会の準備、実施に際しては、三重大学関係のみなさまをはじめとして、学会本部、理事会各委員会など、多大なご支援ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。2022年度は、春季大会が5月17日～21日にオンラインで、秋季大会が北海道大学で開催される予定です。

(中部支部長)

■第24回公開気象講座「豪雪」の報告

日本気象学会中部支部主催の公開気象講座は、気象学に関する専門的かつ最新の知識を一般の方々に分かりやすく解説することを目的に開催されるもので、今年で24回目を数えます。昨年度の公開講座は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となりましたが、今年度は「豪雪」をテーマに9月5日にオンラインで開催しました。オンライン開催のメリットを活かし、北陸など遠方からの参加を期待して、中部支部の公開気象講座では初めて「雪」をテーマに企画しました。

公開講座当日は、中三川浩 支部長挨拶の後、気象研究所の荒木健太郎 研究官より「南岸低気圧による太平洋側の豪雪」と題して、南岸低気圧が首都圏に大雪をもたらすメカニズムについて、わかりやすく解説いただきました。また、監修に関わられた映画「天気の子」で描かれた南岸低気圧についても解説、映画製作のこぼれ話もいただきました。富山大学の安永数明 教授より「富山で積もる雪、積もらない雪—2021年豪雪を事例として—」と題して、北陸地方に豪雪をもたらすJPCZ（日本海寒帯気団収束帯）についての解説や、豪雪災害と海面温度との関係、積もりやすい雪・積もらない雪の特徴を交え、北陸豪雪の発生要因について解説いただきました。休憩をはさみ、防災科学研究所の中井専人 総括主任研究員より「日本海側の”集中”豪雪」と題して、新潟県の集中豪雪発生メカニズムについて、最新の気象レーダや地上観測ネットワークの観測結果を交え、解説いただきました。防災科学研究所での防災・減災への取り組み事例として、豪雪地域の自治体と協力しながら情報提供サービス地域を拡げている、積雪の高さだけではわからない積雪荷重を知ることができる「雪おろシグナル」も紹介いただきました。最後にパネリスト（講師3名、支部長、ファシリテータの水嶋千詠 気象予報士）による総合討論を行いました。参加者は約350名を超え、聴講者の皆様から多くのご質問、講師の皆様からリアルタイム性の高いご回答を頂くことができ、大変有意義な公開講座とすることができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

(中部支部事務局)

■第21回 気象サイエンスカフェ in なごやZoomの報告

「気象サイエンスカフェ in なごや」は日本気象学会中部支部と日本気象予報士会東海支部の主催で、毎年2回開催しています。今回で21回目の開催となりました。従来は喫茶店などにおいて、お茶を飲みながら気楽な雰囲気の中で開催していましたが、新型コロナ蔓延のため、3回連続のZoom開催（2021年10月10日）となりました。

今回は、気象大学校教授の中里真久先生を講師にお迎えし、「竜巻などの激しい突風に備える」というテーマで講演をいただきました。Zoom開催ということで東海地方だけでなく、全国から55名の参加がありました。講演は、突風現象の竜巻、ダウンバーストおよびガストフロントなどの突風現象の違いや発生メカニズムの解説から始まりました。そして、日本での発生分布や被害状況を示していただき、気象ドップラーレーダーを用いた竜巻発生予測とナウキャストによる発生予測の発表と進み、最後に危険回避のための方策まで、丁寧にお話しいただきました。講演後の質問では、竜巻の直接観測の可能性、予測のためのレーダーの利用、竜巻の回転方向などがありましたが、分かりやすく丁寧にお答えいただきました。現象の構造から回避の方法までいずれも興味深い内容が満載でした。

（日本気象予報士会 東海支部）

■2021年度 日本気象学会中部支部 総会報告

日時：2021年7月29日（木）15:30～16:00

場所：名古屋地方気象台会議室

議長：小松恭子会員

総会出席者14名と有効総会参加票89通の合計が103となり、支部会員274名の3分の1を超え総会は成立しました。総会参加票による各議案への意思表示は以下のとおりです（議長委任 45名）。

議案1	賛成44名	反対0名	保留0名
議案2	賛成44名	反対0名	保留0名
議案3	賛成44名	反対0名	保留0名
議案4	賛成44名	反対0名	保留0名
議案5	賛成44名	反対0名	保留0名

全ての議案で、出席者全員の賛成と委任状の議長委任および賛成票を加えた結果、過半数を超え、賛成多数で承認されました。

（中部支部事務局）

◆事務局からのお願い

日本気象学会本部および中部支部から各種案内を電子メールにて配信しております。

ご案内が届いていらっしゃる会員の皆様、ご面倒をおかけいたしますが、

日本気象学会 会員情報変更ページ

<https://www.metsoc.jp/membership-2/update-2>

から最新の電子メールアドレスのご登録をお願いいたします。